

着実に!そして誠実に!



栃木県知事選挙への5選出馬表明記者会見＝8月7日、県庁

初心

2020年盛夏号

令和2年8月発行
年2回刊

題字/福田富一 書

〈発行所〉

福田富一
暮しと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028(633)1111
<http://www.tomikazu.com>

「未来への礎に!
初心・情熱忘れることなく」

栃木県知事
福田富一

《新型コロナウイルス感染症》

新型コロナウイルス感染症は、日本、そして栃木県にも大きな脅威となって立ちはだかつています。

感染拡大防止と社会経済活動の本格化との両立はこれまでに経験のない難しい対応であり、この難局をオールとちぎで乗り越えていかねばなりません。私も又とちぎも力が試されています。

6月26日までは多くの県民の努力により、極めて少ない人数で推移しましたが、その後5つのクラスターが相次いで発生し、一気に300名を超えてしまいました。(8月末日現在)。

郷土を愛し、とちぎに暮らす県民の皆様とともに力を合わせ、この難局を克服し、とちぎの輝く未来を創造して参ります。

《5選出馬を決意》

多くの県民の皆様背中を押され、このたび12月8日の任期満了に伴う栃木県知事選挙に、5選を目指して立候補する決意をしました。

多選については、行政の硬直化、マンネリ、意思決定の独善化などの懸念から、これまで以上に多くの批判も寄せられると覚悟しております。

私自身大いに悩み、一度立ち止まって、これまでの16年間を見つめ直したところであります。

私は『権腐十年』の言葉を心に刻み、政治家として、知事として、職務を担って参り

ました。この16年間は、常にこの言葉を肝に銘じ、自らを律し、ただただ、とちぎのために尽くすこと、そのことにみに全力を注いで参りました。この考えはこれからも一切変わることはありません。

《老馬道を知る》

この道を歩み始めて37年が過ぎました。振り返れば『光陰矢のごとし』であります。

関東地方知事会では最年長ではありませんが、北関東磐城知事会では、いつの間にか最年長になりました。相談する立場から受ける立場となり、責任の重さを自覚しています。経験からの言動やそこに立脚した新たな発想等、さらに磨きを掛けたいと思っています。

《4期16年の経験と実績》

この任期中は、足利銀行の受け皿問題、リーマンショック、東日本大震災、関東東北豪雨、令和元年東日本台風(台風19号)、そして現在直面している新型コロナウイルス感染症対策と、相次ぐ難問に対応してきました。概ね、知事としても県庁としても的確に物事を進めて来られたと思っています。

これまでの経験を通じて築いてきた多くの人脈、さらには市町との強い繋がり、そして何より、県民の皆様との信頼関係があります。

私ならばこの難局を乗り越え、とちぎの輝く未来を創生することが出来ます。

《出前の政治で37年》

「物事の答えは現場に在る」をモットーとしてやって来ましたが、県庁でも現場主義を唱え続けています。37年を過ぎた今、「受けた恩は石に刻み、かけた情けは水に流す」の言葉とともに、初心に帰り、現場を知り、それを大切に、出前の政治を徹底して参ります。

《『先憂後楽』》

今は亡き岩崎純三先生から、県庁を退職し政治の道に飛び込んだ直後に教えて頂いた言葉です。以来私の座右の銘とし今まで歩んで来ることができました。『自分の楽しみは後回しとし、人の憂いを取り払うことに専念する』という意味です。「これが出来なければ実業家を目指さない!」と、色紙とともにお話を賜りました。『筋を通す政治』『分かりやすい政治』とともに引き続き実践していきたい。

《結びに》

新型コロナウイルスとの闘いは長期戦が予想されますが、必ずやこの闘いに打ち勝ち、その先に見える「新しいとちぎ」を明るく輝かしいものとしていかなければなりません。

そして、とちぎの輝く未来の礎を築き、次の世代に繋いでいくことが、4期16年の経験と実績を兼ね備え、そして何よりも、とちぎを愛し、とちぎを知る私に課せられた使命であると考えております。引き続き絶大なるご支援を宜しくお願い致します。

ウィズコロナの時代へ

しもつけ
21フォーラム



講演する福田知事＝1月8日、宇都宮市内

自動車運転、具体的に検討 先端技術活用へ戦略本部

福田富一知事は1月8日、宇都宮市内で開かれた「しもつけ21フォーラム」(下野新聞社主催) 1月例会で講演し、自動運転の県内導入に向け具体的な検討に入る方針を明らかにした。新年度に福田知事をトップとする庁内横断組織「ソサエティ5・0戦略本部」を発足させ、自動運転を含めた先端技術の活用推進に取り組み考えだ。

福田知事は自動運転について「技術開発は東京五輪に向け飛躍的に進む」と予測。2017年に栃木市西方町で国土交通省による初の実証実験が行われたことや、昨年の宇都宮市大谷町での社会実験を挙げた上で「民間の知見を活用し、推進体制の構築を進めていく」と述べた。

新設する戦略本部は、デジタル技術で社会問題を解決する「ソサエティ5・0」に対応する。交通、農業、観光、福祉などさまざまな分野で先端技術を活用し「地域力の強化や県民サービスの利便性向上を図る」と強調した。

いい いちご 1・15 栃木から発信 「いちご王国・栃木の日」

「いちご王国・栃木の日」宣言から2周年となる「いちご」の日の1月15日、県は県庁で記念イベント「『いちご王国』のタベ」を開いた(下写真)。イチゴにまつわる多彩な催しを実施し、県産イチゴの振興や県のブランド力向上に向け、機運を盛り上げた。

栃木県は2018年産まで51年連続でイチゴの生産量日本一を達成したものの、昨年10月の台風19号では約22億円の被害が出ており、各地で力の入ったPRが展開された。

午後5時から始まった式典では、福田知事が白を基調とした上下に赤いマントを羽織った「国王」姿で登場。「国民」が「いちご」として、『栃木と言えばイチゴ、イチゴと言えば栃木県』と言われるよう、全国に発信していこう」と呼び掛けた。



「いちご王国」の国王・福田知事(中央)

新型コロナウイルス 感染症 第2波到来

昨年12月に中国湖北省武漢市で発生以降、日本をはじめ世界中に感染が拡大し猛威を振るっている『新型コロナウイルス感染症』は、84件。委託医療機関による検査や、感染者周辺の積極的な検査が大幅に増えており、感染者の早期の発見や治療につながっているとみられる。

一方で陽性率が上昇し、感染者の絶対数が増えているとみられ、福田知事は現在の感染状況を「第2波」とする認識を示している。

感染経路が断定できない事例も増える中、感染者周辺の積極的な検査などで集団感染を防ぐ考えだ。

新型コロナウイルス 感染症 Q&A

新型コロナウイルス感染症について様々な疑問や質問が寄せられている。知事に聞いてみた。

県の情報開示に不満？ 当初、SNS等で憶測やデマが広がる！

(質問) 県は当初、感染者の居住地について「県南健康福祉センター管内(小山、栃木、下野市、壬生、上三川、野木町)などと公表し、具体的な市町名を公表しなかった。そのためインターネットなどでは居住地を巡り憶測やデマが広がったが、なぜ市町名を公表しなかったのか？

(回答) 情報開示について

に出ないのか？

(回答) 初めての感染者の記者会見は知事が行い、2人目以降は担当部長が行うという暗黙の決まりがある。栃木県で初の感染者がでた2月22日は福田知事が会見を行った。2人目の感染者がでた3月5日は、大阪でクラスターが発生したライブハウスに参加していたという特異なケースで福田知事が会見し、その後担当部長が会見を行っている。

県内の感染者は6月26日まで66人と近隣県(茨城県172人・群馬県152人)と比べても少なく、また宇都宮市は独自に会見を行っているため(後述の通り)、福田知事の顔が見えないと思われたのではないかと。

言い換えれば、当時県内は他県のように病院や高齢者施設でのクラスターなども発生しておらず、感染経

路もある程度追えていたもので福田知事が会見に出る必要はなかったのである。

県と宇都宮市はなぜ会見(発表)が別なのか？

(回答) 宇都宮市は中核市で独自に宇都宮市保健所を持っており、検査は宇都宮市衛生環境試験所が実施している。そのため宇都宮市内の感染者情報は宇都宮市が発表している。

県の記者会見はなぜ遅い時間になるのか？

(回答) 県はその日のPCR検査の結果をその日のうちに公表するので遅くなる。県の検査結果は17時までに、宇都宮市の検査結果は18時までに発表される。

(3ページに続く)

選ばれるとちぎの実現に向けて

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞の記事を抜粋させていただきま

コロナ感染防止へ共同宣言 北関東磐越5県知事会議

8月15日、栃木や福島、茨城、群馬、新潟の5県の知事らによる第16回北関東磐越5



県知事会議が宇都宮市内のホテルで開かれ、新型コロナウイルスの感染拡大防止と観光関連産業の回復に向けて5県が連携する「北関東磐越5県共同宣言」を発表した(写真)。

検査・医療提供体制の拡充や東京一極集中の是正などの新型コロナウイルス対策を含めた計13項目を国に要望することも決定した。

スポーツ庁等へ要望 いちご二会とちぎ国体

鹿児島県で10月に開催予定の国民体育大会の延期が検討される中、本県など後催県4県は6月11日、スポーツ庁などの関係機関とウェブ会議を実施(写真)。鹿児島国体の開催可否の判断に当たり、4県への影響がない対応策などを要望した。ウェブ会議で福田知事は、栃木国体は国体の名称が国民スポーツ大会に変わる前の「最後の国体」であることを強調。本大会と冬季大会を同時開催する一体性にも触れ「本大会が1年ずれる



と描いてきた構図とは違ってしまう」と本県の事情を説明し、理解を求めた。

《「コロナとちぎ」》



コロナ禍での県民の日、「県民の歌ウェブ特別演奏会」で指揮を努める福田知事=6/15

- ◇1月6日 幹部職員へ年頭訓示／「干支のネズミのように嗅覚を磨き課題に取り組んでほしい」
- ◇1月26日 日光市で日光冬季国体2年前イベント／「感動を創出する大会に」と福田知事。
- ◇1月31日 『新型コロナウイルス対策本部』を設置／県民・関係機関への情報提供や検査体制の整備など各部署の対応状況を確認。
- ◇1月31日 県保健環境センターで新型コロナウイルスの遺伝子検査を実施できる体制を整備。
- ◇2月22日 栃木県で初の感染者確認。
- ◇2月27日 安倍首相が全ての小中学校や高校、

- 特別支援学校への休校要請を表明／緊急の対策本部会議を開き今後の対応を協議する。
- ◇2月28日 県立高校、特別支援学校などを3月2日から春休み前まで休校すると発表。
 - ◇3月24日 東京五輪延期／「残念だが、本来の聖火リレーに戻すチャンス」と福田知事。
 - ◇3月26日 感染者の急増を受け、今週末3都県への不急不急の外出を控えるよう呼び掛ける。
 - ◇4月1日 県庁で辞令交付式／「持てる能力を存分に発揮し栃木の推進力になって」と知事。
 - ◇4月7日 7都県へ緊急事態宣言が発令／福田知事、対象地域への往来自粛を要請する。
 - ◇4月8日 栃木県立高9日から22日まで再休校すると知事発表。私立高13校も決定。
 - ◇4月10日 検査体制強化／「地域外来・検査センター」を県内に10カ所設置すると発表。
 - ◇4月17日 県がコールセンター開設。
 - ◇4月17日 全国への緊急事態宣言を受け、全国知事会ウェブ会議／那須地域への「コロナ疎開」を念頭に「都道府県をまたぐ移動を強く制限すべきで、法整備の検討も必要」と福田知事。
 - ◇4月18日 同日から休業を要請している施設や店舗に最大30万円の協力を支給すると表明。

- ◇4月29日 全国知事会ウェブ会議／9月入学、「拙速な導入は反対する」と福田知事。
 - ◇5月12日 全国知事会ウェブ会議／福田知事、宣言一部解除後に越県自粛呼び掛けを強調。
 - ◇5月15日 全休業要請終了へガイドライン。
 - ◇5月20日 宇都宮市、ドライブスルー方式でのPCR検査センターを開設。
 - ◇6月15日 「県民の日」セレモニー／「県民の歌ウェブ特別演奏会」に12人の音楽家に参加し、福田知事が指揮者を務めた(写真)。
 - ◇6月16日 「県民1家族1旅行推進事業」スタート／県民が県内宿泊割引の受付開始。
 - ◇6月27日 24日間連続感染者「ゼロ」から一転、宇都宮のキャバクラで県内初のクラスター発生／知事、キャバクラ業界団体に対策要請。
 - ◇7月27日 警戒度を「感染拡大注意」に引き上げ／新型コロナウイルス特別措置法第24条に基づき、感染拡大防止対策への協力を要請する。
 - ◇7月29日 1日感染最多17人、初の2桁／感染者数188人、「家庭内での感染にも注意を」
 - ◇8月3日 「とちぎ応援プレミアムチケット」(プレミアム率2割) 県内郵便局で販売開始。
 - ◇8月12日 警戒度7指標・4段階に改定／「県民と危機感を共有したい」と知事。
- 現在の警戒度は「感染拡大注意」

(2ページからの続き)
そこに民間機関からの検査結果を加えて資料を作成すると記者会見は、宇都宮市は20時頃、県は21時前後になる。今後は一定時間経過後に判明した分は翌日発表として、会見時間を早めることも検討中である。

うお願いした。事実、多くの家庭で帰省するかどうか話しあったと聞いている。

感染した場合、治療費はどの位かかるのか？

(質問) 感染してしまったらPCR検査及び治療費はどれくらいかかるのか？

(回答) 新型コロナウイルスは厚生労働省より1月28日に「指定感染症」に指定する政令が出され、2月1日より施行されている。

福田知事は積極的には他県からの移動自粛を求めているが、

それに伴い、新型コロナウイルス感染症のPCR検査及び治療費は全額公費負担となり実質患者側の自己負担額は無料となっている。

(回答) 緊急事態宣言が出される前後は感染拡大地域との往来自粛を要請したり、「コロナ疎開」などが起きた時は「都道府県をまたぐ移動を制限する法整備も必要だ」と全国知事会で訴えるなど、感染状況を見ながら移動自粛を要請してきた。

「感染しているかどうか心配」PCR検査を受ければ安心？

(回答) 症状もなく濃厚接触者でもない人がPCR検査を受ける場合は自己負担となり、医療機関によって異なるが、概ね3万円前後と言われている。

栃木県はこれまで積極的に企業誘致を進めてきており県内には60以上の工業団地が存在する。そこで働く人たちも数万人おりその家族もいる。出身地(他県)ナンバーを変えずに栃木県で生活している人たちも大勢いる。一概に他県ナンバーだからと排除はできない。お盆の帰省についても、その家庭によってそれぞれ事情が異なる。県から自粛を求めるのではなく、家族間で相談し、感染予防対策を十分に講じて帰省するよ

であれば一時は安心するが以後感染しない保証はない。それよりも感染予防をしっかりし、感染しない、感染させない行動が大切である。

継続は力なり！

福田富一知事5選出馬表明



福田知事は8月7日、県庁で記者会見し、12月8日の任期満了に伴う県知事選に5選を目指して無所属で立候補すると正式に表明した。新型コロナウイルス対策の推進をはじめ、中央省庁の分散誘致を含む首都機能移転、美術館と図書館の創造拠点構想などを公約に掲げた。

政界や経済界などから要請でに公表する。

福田とみかず後援会総連合会会長 福田宏『福田富一という政治家の資質』



(1) 平和主義者―常に栃木県と県民が平和で安全安心な社会経済活動が出来ることを第1に考えている。

(2) 危機に強さを発揮できる―栃木県や県民が突然危機に瀕した時、率先して対策や解決方法を考え実行できる。

(足銀破綻、リーマンショック、東日本大震災、昨秋の台風被害や今回のコロナ禍など。)

(3) 栃木県の知名度を上げるために自ら県産品や観光地の宣伝を行っている。

(トップセールス)

知事選出馬表明までの経緯

11月の知事選に向け、県内の商工団体や市長会、町村会など、各種団体や多くの県民の皆様から出馬要請を受けながら、新型コロナウイルス感染症対策のため出馬の意向を示してこなかった福田知事。

7月19日、『福田とみかず後援会緊急役員会』が開催され、事務局から11月の知事選に向けての経過報告があり、改めて出席者の皆様に知事選への出馬要請を諮ったところ、満場の拍手で承認された。

翌20日には新型コロナウイルスの感染拡大により延期となっていた福田とみかず後援会総連合会『代表者会議』が開催され、板橋幹事長から「風水害等の災害から県民の生活・財産を守り、コロナ後の新しい社会にも的確な対応ができるのは福田富一知事で

(4) いつも現状より生活や経済を良くする向上心を持っている。

(5) 全てのことに對して県民優先―栃木県が良くなることを最優先に考えている。

以上、福田知事は5つの資質を持つており、更に庶民出身の知事であり、庶民の気持ちや行動を良く理解でき、庶民のために善政を行うことが出来る政治家である。

多選の弊害とは悪政を行ってきた政治家が何度も選ばれることを言っているのであり、次の4年間知事を続けることは、県民と栃木県の未来にとって最良の選択となる。皆様のご支援を宜しくお願いします。

あり1日も早い5選出馬決意表明が欲しい」と会場の皆様に諮ったところ満場の拍手で承認された。

福田知事は「秋の選挙に向け出馬について拍手で承認を頂いた。今後関係の皆様方と最終調整を行った上で、政策等を練り上げ、改めて公に表明したい」と述べた(左写真)。



ゆりの会新年会

2月16日、恒例の『ゆりの会新年会』が、ホテル東日本宇都宮を会場に約320名の晴れやかな装いの皆様をお迎えして開催された。

福田知事は公務のため途中退席したが栗田智水さんと井上智美さんがフルートとエレクトーンの演奏で盛り上げて下さり、終始和やかな雰囲気で開催することができた。



フルート奏者の栗田智水さん(左)とエレクトーン奏者の井上智美さん

『福田家の茶の間』

夫が帰宅すると、まーくん(黒バグ・2歳)がまっ先に玄関へ走っていき、続いて私が「今日はどうだった?」と聞く。「今日はゼロ」、「よかったね」。コロナ感染症の流行以来こんな会話が日課となっている。

ところで、4月8日の県立学校再開の前の週、後援会事務局では高校生と思われる男の子からの相次ぐ電話に悩まされていた。学校再開の延期を求める内容であったが、名前を名乗らず自己主張だけし、とても大人に對する言葉遣いではなかったからである。私が受けた電話では「栃木県は感染者数ごまかしてんでしょ」と始まり、何を言ってもこんな調子でこちらが腹立たしくなるだけであった。せっかくなので感染拡大を防ぎたいという思いからやっていると、のだから「どうしたら理解して納得し言葉遣いから考えて欲しい」と思った。

一・市会(親戚会)



7月23日、ニューみくらで70名が出席して4年ぶりの一・市会を開催した。コロナウイルスの感染が拡大する中、マスクをし、社会的距離を保つての開催となった(マスクを外して「はい チーズ」)。

この頃、SNS上では知事に対する誹謗中傷が相次いだ。だが、初めての経験で、心配する私に夫は「大丈夫、間違ったことはやっていないから」

「後で必ず分かるよ」と言っていた。この時の県内の感染者は20名程度で近隣県に比べても少なく抑えられていた。それがかえって他県の知事に比べて「判断が遅い」とか「リーダーシップを発揮しない」とか思われたようである。猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。当初、世界中から届く衝撃的な映像(爆発的な感染の広がり、医療崩壊、増え続ける死者、有効な治療方法の不在等)は、私達に得体的な知れないものへの不安と恐怖を与えた。それが感染者や医療関係者へのいわれなき差別や誹謗中傷につながっているのだらうと思われる。

夫は一時の目を引くような政策は言わないが、常に県民の皆様への命と暮らしを守ることを考えている。ご支援を宜しくお願い申し上げます。

編集後記

コロナ禍の中

『未来へつなぐ ちぎの挑戦(誠実にそして着実に)』をスローガンに5選出馬を表明した『先憂後楽』を座右の銘に日々邁進する知事により一層のご支援をお願いします。

ところで、2月の『ゆりの会新年会』以降コロナの感染拡大により後援会のすべての行事が中止となりました。盛夏号は変則的な編集となっております。どうぞ一読下さい。

◆福田富一後援会総連合会事務局
◆福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110